

子ども会 (学習会) だより

MY SKY No. 1



1997年4月23日水曜日発行(毎週火曜日きまぐれ発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責:吉成正士

みなさん、こんにちは!! 2, 3年生のみなさんとはしばらくのごぶさたでしたね。転入生や1年生のみなさんとは「はじめまして」になります。昨年度に引き続き、今年1年間MY SKYの編集をする、同和教育担当の吉成正士です。よろしくお願いします。

さて一番初めにお願ひですが、このMY SKY、学習会や同和教育に関することについて学校内外のことを問わず綴っていくのですが、みなさんが読んだ後は、必ずお家に持って帰って、お家の方に渡しておいてください。よろしくお願いします。

さて、それでは本年度のMY SKYはじまり、はじまり~!



☆ 人間として生きることの自覚をすべての人に!!

4月6日の徳島新聞の「日ヤン」コーナーをご覧になった方も多くいると思います。右の記事がそれです。たとえ学校関係者でなくとも、町民であればごくショッキングな記事ですよ。

この記事がMY SKYに載せるかどうか私自身少し迷いましたが、教師・生徒を問わずみんなに見てもらおう中で、少しでも良い方向性が見つけられればと思い、敢えて載せさせてもらいました。

まずこの内容ですが、残念ながら本当のことでしょうね。というよりも、生徒のみなさんがこう受け取っているのなら間違いなく本当のことでしょう。ただ、よく知らない人が読むと、すべてがそうなのかと誤解を生んでしまう恐れもあると思うんです。つまり、木を見て山を判断してしまう危険性があると思うんです。けど、決してそうではないと思います。

確かに、今の板中には、たくさん問題があります。学校に来れない子もいますし、身

私の学校には、学校に来ない生徒がたくさんいます。たまに来たと思ったら、ピアスが增えたり髪の色が変わっていたり。しかし先生は見て見ぬふりをしています。ある子が席を立っていても、「席に着けよ」と言うだけで、あきらめているような面が見えます。私には、先生がそんな子たちに甘くしているようにしか見えません。それに先生たちは、生徒の方に問題があるとしか考えて



をもう一度見直してほしいです。私は今の先生たちの態度が大嫌いです。

生徒に対する態度

もう一度見直して

いけないような気がします。先生の方があきらめの態度をとっているように見えるから、私たちが生徒も別にちゃんとしなくていいのかもしれない。何に対してもめんどくさくなるので、なんでも生徒の方に問題があると思わないで、生徒に対する態度をもう一度見直してほしいです。

だしなみの方に気がいっている子もいます。また校内の施設が壊されたり、仲間であるはずのみなさんの物がなくなってしまうこともあります。心ない暴力行為もあります。これらは断じて許されるべきことではありませんし、今の中学生のうちになおしておかなければ、大人になって取り返しのつかないことになってしまう恐れもあると思うんです。

先日、3年生の靴がなくなりました。「もう許せん！」という思いで、全校生徒を体育館に集めて全校集会をしました。まるまる1時間、今の板中のことについてお話を聞いてもらったのですが、そのときのみなさんの表情は真剣そのものでした。岩瀬先生からいただいた三つのお話は、特にみなさんの心に響いたのではないのでしょうか。

興味だけが先走り、自分を落としてしまうような、自分の価値を下げてしまうようなことでは、人生がもったいありません。確かに今の中学生は、毎日のようにたくさんのプレッシャーを感じながら生活をしている以上、そのはけ口をどこかに求めたくなるのかもしれませんが。かといって憂さ晴らしのためにするファミコンは、やっつけてもやっつけられても何度でも生き返ることのできる格闘技や、戦闘ゲーム……。そんなマイナス体験の積み重ねが、キッチリ物事を判断できない性格に変えていくのだと思います。目先のことしか考えられず、先のこと考えられない。また、相手のことを深く考えることのない性格に変えられているのではないのでしょうか。心が豊かになるようなプラス体験もたくさんしているのですが、マイナス体験の方が日頃からたくさんあるぶん、ちょっとやそっとのプラス体験では追いつかないのかもしれないかもしれません。

今私たちには、身の周りの相手のことをわかろうとする中で、何が良くて何が悪いのかをキッチリと示しながら、その相手が心の根っこの部分から「変わろう！」と思えるような働きかけをしていくことが大切なのではないのでしょうか。それが、時には教師であり、時には同級生であるみなさんなのだと思います。つまり、みなさん自身の姿勢と、周りの同級生への関わり。教師自身の姿勢と、生徒との関わり。これを、今一度互いに見直すべきなのだと思います。

この春の卒業式に、みなさんの先輩たちが、その人間関係の絆を「答辞」という形で示し残してくれました。人間関係の基本となるようなこの内容を、じっくり味わってみたいと思います。

愚痴を言うな
弱音を吐くな
勇気と正義をもって貫いてゆけ

ごまかしはすぐばれる
タンポポの根のように
踏みにじられても
食いちぎられても
芽を出し
花をつける
強さを持つて
幸福をまき散らすというのが
タンポポの花ことばだが
自分の幸せを求めながら
人の幸せを考えてゆく
人間になれ
それをこのタンポポから学べ
傷つき倒れている
一羽の小鳥を助けてやる
善意の心を失わずに行け
零下十数度の寒冷にも堪えて咲く
この小さな野草の強さを
身につけようではないか

覚えていますか。3年生のみなさん。この「タンポポ」の詩に出会ったのは、僕たちを支え、そして心の核となった部落問題学習の時間でしたね。

「卒業」この言葉を深くかみしめる時、この詩が浮かんできます。この詩のように、たくましく、そして思いやりを持ってすごせた3年間であったでしょうか。同じ時を、共にすごしてきたとなりの友達を、かけがえのないものとして大切にできた毎日であったでしょうか。

そして、1、2年生のみなさん、僕たちがこれまで接してきたすばらしい先輩のようにみなさんにとって、僕たちはよき先輩であったでしょうか。これまでの先輩たちが築きあげたものを、より大きなものとして伝えることができたのでしょうか。自分のことで精一杯で十分なことができなかつたように思います。

また、自分たちをふり返ってみたとき、自分にとっての友達はすばらしいものでありましたが、友達にとっての自分は、はたして対等^{たいどう}で、たよりになる存在、力づけられる存在であったでしょうか。毎日の暮らしの中で友とのすれ違いにぶつかった時、その友のつながりを切ることなく、共に向上しようと本気でかかわった自分であったでしょうか。

卒業にあたり、喜びの中にも不完全燃^{ふ かんぜんねんしょう}焼の自分も見え、少しにがい思いがします。

3年前の春、僕たちは数々の期待や不安を胸にこの板野中学校に入学してきました。英語を始めとする中学校の勉強についていけるかという不安や、テストで番数がつくという厳しさにドキドキしながらも、どれくらい自分の力が通用するか、どれくらい自分の力が生かされるか、ワクワクした入学の頃。

「もう中学生なのだ」という意識への切り替えに必死でした。その頃から今日まで僕たちは、様々な峠を^{めざ}目指し、ひたすら歩き続けてきました。

思いおこせばいろいろな行事がありました。日頃見^み失いがちな自然のすばらしさや温かさにふれた牟岐少年自然の家での宿泊訓練。自然の雄大さに感動し、また戦争の悲惨^{ひきん}さ、生命の尊さ、平和の大切さを学んだ修学旅行。みんなの気持ちを一つにし、思いっきり唱うことの楽しさ、喜びを味わった合唱コンクール。全員でバトンをつなぎ心をつないだ体育祭。「友愛」をテーマに努力と団結で、無^むから有^{ゆう}への創造^{そうぞう}を成し遂げた文化祭。

こういった行事を通して、僕たちは自分の可能性に気づいていきました。でも、一緒に笑い合える友や一緒ががんばる友の姿がそこになければ、これらの行事も味気なく心に残るものにならなかったと思います。

僕たちのそばにはいつも仲間がいました。友達との何気ない会話やあいさつの一言にさえも、心が通^{かよ}いあう大切なものがあつたような気がします。

自分の目標を達成するために、また自分の夢を叶^{かな}えるためにがんばった部活動。生まれて初めてこれほど真剣で本気になったことのない受験勉強。どちらにもやはり一生懸命にがんばる仲間の姿があり、勇気づけられました。

しかし、なんといつても学年、学校全体で取り組んだ全体学習ほど、僕たちの心に^や焼きつく友の姿を見た時間はありません。

「部落問題学習」、始めは少しかまえてしまうところがありました。自分の中の醜^{みにく}さや、いやな部分にふれるのがこわくて、きれいな時間、暗く重い時間でした。が、いつの間にか自分を輝かせ、自分が好きになる時間になっていきました。全体学習を積み重ねる中で、正直に自分の意見を堂々と語る友や、涙があふれるのもかまわず自分の思いを必死で伝えようとする友の姿に、僕たちの意識は次第^{しだい}に変化してきました。最初は正義感やライバル意識から始まった発表、形やうわべだけだった言葉も、友の真剣でひたむきな様子^{ようす}にいつの間にか心が素直になり、今、何をすべきなのかを自分に問いかけ、自らを語れるようになりました。

本音を語ることは苦しいことです。何故か胸を張れず下を向いてしまうこともあります。

しかし、苦しいことや面倒なこと嫌なことの中に、自分をきたえるものがあるというのを、友と共に確かめ合った部落問題学習でした。

でも、もうこの体育館でみんなと共に考え話し合うことはなくなります。今、卒業と同時にそれぞれの新しい世界に向かってスタートラインに立ちました。今までと違った環境で、今までと違った友達と生活を送っていきます。これからです。これまでの僕たちの積み重ねてきた力が試されるのは……。たとえどんな場所でも、どんな人たちの中でも自分自身を輝かせていける僕たちでありたいと思います。

僕たちの3年間の歩みは仲間^なの存在なしにありえませんでした、しかし共に歩んでくれたのは仲間^なだけではありませんでした。

いつも僕たちのそばで同じように喜び、同じように悩み、ひたむきに頑張ってくれた先生。僕たちの反発^{はんぱつ}で気持ちがぶつかりあいながらも、ごまかさずにきちんと向かい合ってくれました。そんな先生の姿を見て、僕たちも本当の気持ちを素直に打ち明けることができました。これからも先生とのかかわりは、僕たちの歩んでいく力になると思います。

また、僕たちは中学生になると同時に、部落問題学習を通して「家族」というものを考えてきました。自分にとっての家族、家族との関係……、これを考えていくなか、家族の人たちの僕たちを思う深い愛を知り心強く思いました。いつもはそのことをあたりまえのように思って、わがままを言って困らせてばかりです。お父さん、お母さん、いつもうまく気持ちを伝えられず、もどかしい僕たちですが、今ここで感謝の気持ちを言葉にしたいと思います。ありがとうございました。

最後になりましたが、僕たちには忘れられない悲しい出来事がありました。本来ならば今日ここに僕たちと一緒に座っているはずの一人の友を、2年前不慮^{ふりよ}の事故で失いました。あの時僕たちは、K君の分まで精一杯生きていこうと誓^{ちか}い合いました。今日もK君と一緒に卒業していきます。

板野町で生まれ育ち、この板野中学校で学んだ一人として、ふるさとや板野中学校の名を誇りにできるような生き方をしていきたいと思います。見ていてください！

1997年3月15日 卒業生総代

人間社会で生きている以上、より良く心地よい人間関係の中で生きていきたいものです。

そのためには、なれ合いだけでない世界を^{あじ}味わわねばなりません。くじけない、あきらめない、開きなおらない、ひねくれない、^{ひくつ}卑屈にならない、つっぱらない、そんな生き方を少しづつ^{きず}築き上げていこうではありませんか。

そして、いずれ来る「卒業」に向かって、学年全員で歩いて行こうじゃありませんか！



今家庭訪問の^ま真^{さいちゆう}っ最^{さい}中で、午前中授業の毎日が続いて

いますね。始業式、入学式の学級開きや参観日も終え、学級もだいふ^{なじ}馴染んできているのではないのでしょうか。次回は、この時期のこれらの行事がどれだけ大切なのかということについて、^{つづ}綴^{つづ}ってみたいと思います。お楽しみに！！

ちなみに来月^{そうそう}早々、学習会の開講式があります。開講式は、学校でいう入学式や始業式にあたる大切な大切な行事です。学習会参加者は今から日程を^{ちようせい}調^{ちようせい}整し、予定に入れておい

☆☆☆ ★★ ★☆☆☆☆ ★★ ☆☆☆

- 5月3日(土) 第2回人権啓発フェスティバル(9:30~16:00; 板野町文化の館周辺)
- 6日(火) 学習会全学年合同開講式(17:00~19:00; 板野町総合センター)
- 9日(金) 遠足(1年生・3年生; レオマワールド, 2年生; 鷺羽山ハイランド)
- 12日(月) 第1学年学習会保護者会(19:30~; 板野中学校会議室)
- 14日(水) 第2学年学習会保護者会(19:30~; 板野中学校会議室)
- 16日(金) 第3学年学習会保護者会(19:30~; 板野中学校会議室)



羽曳野中学校中学生友の会交流会 (バーベQ) (97. 9. 14)